

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

平成23年3月1日（火）発行

会 報

事 務 局

北海道札幌琴似工業高等学校

〒063-0833

札幌市西区発寒1 3 条 1 1 丁目

TEL 011-661-3253

FAX 011-661-3252

巻 頭 言

「豊かな自己実現を支援する定通教育を目指して」

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会長

北海道有朋高等学校通信制課程副校長 板 東 眞 一

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会会員の皆様には、日頃より本部会の運営・諸事業の推進に深いご理解と多大なるご尽力をいただき深く感謝申し上げますとともに、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会定通部会をはじめ関係機関より賜りました温かいご指導・ご支援に対しまして、本部会を代表して心より感謝申し上げます。

さて、我が国の高等学校定時制通信制教育は、昭和22年3月に公布され、翌23年4月に施行された学校教育法（昭和22年法律第26号）により設けられた新学校制度として始まり、勤労青少年の教育機関として社会に有為な人材を多数輩出してきたところです。しかしながら、産業構造の大転換に伴う社会情勢等の変化により、現在では学校教育のセーフティネットとしての機能、更には生涯学習社会の一翼を担う機能を併せ持つことが期待されるようになりました。小中学校時代をほとんど不登校で過ごした生徒、学習意欲はありながらも健康上の問題から十分な学習機会に恵まれなかった生徒、全日制高校に入学しながらも様々な事情で転編入学をせざるを得なかった生徒、日本語の修得が不十分なために学習が思うように進まない外国籍生徒、そして学習障害等から特別な配慮を必要とする生徒への対応等、定通教育に求められる課題は大きくしかもより専門的になっています。

このような中、全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会では、①勤労青少年の修学条件の改善及び就学の促進、②多様化した生徒に応じた定通教育の改善と充実、③教職員の定数及び待遇の改善、④組織及び事業の充実と活性化の4点を事業目標に掲げ、定通4団体との連携による各種事業及び調査研究活動に取り組んでいるところです。

本部会におきましても、会員相互のネットワークを駆使しそれぞれの学校で課題解決に向けた着実な学校運営が進んでいるところですが、生徒を取り巻く環境は一層複雑化し、教育と福祉の問題はますます重要性を増しています。本部会には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、更にはキャリアカウンセラー等の専門家との実効性のある協力協働体制を整備すると共に、定時制通信制に学ぶ生徒が社会生活に確かな一歩を踏み出し、一人でも多くの生徒の夢や希望が叶うよう更なる取組が期待されています。

北海道における生涯学習の一翼を担い、また老若男女を問わず学ぼうとする生徒一人一人の豊かな自己実現を支援する定通教育を担うものとして、本部会の果たす役割は決して小さくはありません。定通教育の優れた特長を生かし、今後とも生徒のために最善を尽くす所存ですので、会員の皆様のご理解・ご協力をお願いするとともに、皆様のご健勝と更なるご活躍を祈念し巻頭のご挨拶といたします。

「定通教育の現状と諸課題について」

北海道高等学校長協会定通部会長 穴 水 正
北 海 道 有 朋 高 等 学 校 長

日頃より、北海道の定通教育の推進にご尽力をいただいております、定通部会所属の各教頭・副校長の皆様に対しまして、心から敬意を表しますとともにお礼申し上げます。また、北海道教育委員会を始めとする関係諸機関並びに関係各位からの温かいご指導やご支援に対しまして、深く感謝申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、北海道における定通教育は昭和 23 年 4 月に定時制 104 校、通信制 2 校が、全日制高校に併置及び分校の形で設置されたのに始まりましたが、現在、社会経済システムの高度化・複雑化が進行する中で、生徒減少期を迎えたことなどにより、学校再編を含む改革の波が定通教育にも及んでおり、定通部会に加盟している公立高校は、平成22年度で道立高校が36校、市町村立高校が11校の計47校となり、今年度中に札幌啓北商業高校と室蘭工業高校が閉課、北見仁頃高校が閉校となるため、平成 23 年度には 44 校となる予定です。

このような状況にあって、定通教育は勤労青少年に対する後期中等教育の保障のみならず、全日制課程の中退者や不登校経験者、集団に馴染めない生徒、外国籍生徒や心の病や発達障害等に係わる対応も緊急な教育課題になってきております。その為、定通教育は、生涯学習社会のニーズに応えながら、従来からの基本理念である勤労青少年の育成と支援を踏まえつつ、多様な生徒の生活環境や勤労環境に則して、生徒が未来に向かって自らの可能性に挑戦できる教育を推進することが求められております。また、単位制の導入とともに、定通教育に携わる教員の資質向上や地域と連携する学校経営の実現など、情熱と使命感にあふれる教育活動の創造も求められております。

これら諸課題の解決に向けて、全国定時制通信制高等学校長会は、①キャリア教育の充実による就労・就学支援策の推進、②特色と魅力ある教育課程の編成・実施及び情報機器の整備、③養護教諭の配置を含めた定時制及び通信制の教職員定数法の見直し、④スクールカウンセラー（専門医・臨床心理士を含む）配置条件の改善と教育相談体制の充実、⑤学校給食の意義の確認と完全給食の促進・充実、⑥私学定時制・通信制教育の振興、⑦授業料の無償化に伴う制度・体制の検討・整備の 7 点を活動の重点目標として設定し、時代の進展に応じた活力と魅力ある定通教育のより一層の充実と振興に力を尽くすこととしております。これらの重点目標は当然のこととして北海道の定通教育における重点目標でもあり、各教頭・副校長の皆様のご支援とご協力をいただきながら、各校が互いに連携協力する中で、一つ一つ取組を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

終わりになりますが、教頭・副校長会定通部会の会員であります皆様の、ますますのご活躍を心よりご祈念申し上げ、巻頭の挨拶に代えさせていただきます。

**平成22年度 第61回 全国高等学校定時制通信制
教頭・副校長協会教育研究協議会鳥取大会 報告
～生徒の実態に応じた教育内容・方法の工夫・改
善及び定時制通信制教育の充実のための方策等
について～
北海道高等学校教頭・副校長会定通部会事務局長
北海道札幌琴似工業高等学校教頭
一色博介**

日頃より当事務局にご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。これまでに年次計画をほぼ当初の予定どおりに遂行できましたのも会員各位のご支援の賜と感謝申し上げます。

さて、標記大会について次のとおり報告します。

□期 日 平成22年7月29日(木)～30日(金)
□会 場 鳥取市 白兔会館
□参加者 210名(北海道支部より代表3名)

◆全国理事会・総会

主催者を代表して徳重 隆全国定時制通信制教頭・副校長協会理事長(東京都立六本木高等学校副校長)より、開催支部を代表して尾崎恭司鳥取大会実行委員長(鳥取県立鳥取緑風高等学校教頭)より、挨拶がありました。来賓として伊藤和雄(財)石沢奨学会事務局長から挨拶があり、議事後、顧問・名誉会長へ表彰状・感謝状が贈呈されました。

◆開会式

太田光春文部科学省初等中等教育局視学官、手計高志厚生労働省鳥取労働局職業安定部長、石曾根誠一(財)全国高等学校定時制通信制教育振興会常務理事、町田静隆全国定時制通信制高等学校長協会理事長、石田正紀鳥取県教育委員会事務局次長より祝辞がありました。

◆講演

「動物行動学から見た”学び“」と題して、鳥取環境大学教授 小林朋道氏による講演がありました。

◆研究協議会・分科会

各分科会の発表内容・発表校は次のとおりです。

◇第1分科会<教育課程>

「地域と農業の力を活用し『生きる力』を育む教育課程の編成と実施」北海道幌加内高等学校、「教育課程の再考～キャリア教育の取り組みを通じて」青森県立八戸中央高等学校。

◇第2分科会<生徒指導>

「定時制における『道徳』の取り組みについて～」茨城県立結城第二高等学校・茨城県立水戸南高等学校、「本校における生徒指導について ～一人ひとりを大切にしたいきめ細やかな指導～」徳島県立池田高等学校。

◇第3分科会<管理運営>

「定時制・通信制の現状と課題－滋賀県定時制・通信制8校のアンケートをもとに－」滋賀県立彦根工業高等学校、「定通チャレンジ事業の取組を通して」新潟県立新潟翠江高等学校、「入学者選抜制度から見た愛知県の定通教育 ～アンケート調査から見えてきたもの～」愛知県立熱田高等学校。

◇第4分科会<教育制度・単位制>

「東京都の三修制の現状と課題」東京都立砂川高等学校、「単位制の課題とその改善策 ～ひびき高等学校の現状報告から～」福岡県立ひびき高等学校。

◇第5分科会<通信教育>

「本校通信制の現状と課題 ～多様な生徒への対応～」香川県立丸亀高等学校、「創立10周年を迎えた郡山萌世高校通信制課程の現状と課題」福島県立郡山萌世高等学校。

◆研究協議会・全体会

各分科会の報告者が各研究発表と協議内容について報告し、各助言者が全体講評を行った。

◆閉会式

吉田 隆鳥取大会副実行委員長(鳥取県立倉吉東高等学校教頭)の開式の辞の後、次期開催地の九州支部より黒島直人氏(沖縄県立泊高等学校教頭)が沖縄大会の準備状況を報告して、全日程が終了した。

本支部を代表して研究発表を担当された北海道幌加内高等学校山本周男教頭には、心から感謝申し上げます。

全国高等学校給食研究協議会 理事会・総会及び第61回全国学校 給食研究協議大会報告

北海道札幌工業高等学校教頭
木 藤 宏 伸

平成22年11月10日に全国高等学校給食研究協議会理事会・総会が香川県高松市「サンポートホール高松」で開催されました。11日、12日は当会場において第61回全国学校給食研究協議大会が開催されました。

1 全国高等学校給食研究協議会理事会・総会報告 〔理事会・総会議事〕

- ①平成21年度会務、会計決算会計監査報告
- ②平成22年度会務、計画、事業目標、会計予算案等が審議了承されました。

〔平成23年度以降の全国大会及び理事会・総会〕

- ①文部科学省が主催する全国学校給食研究協議大会への参加は平成22年度をもって終了すること。

尚、平成24年度より隔年で東京において全国高等学校給食研究協議会を開催する予定であることが確認されました。

- ②平成23年度の全国高等学校給食研究協議会理事会・総会は東京都で8月を予定していることが確認されました。

〔東北・北海道ブロック役員〕

- ①ブロック長は福島、宮城、青森、北海道、岩手、秋田、山形、福島の順とし、ブロック長が第一副会長となること。
- ②第二副会長は当面の間、加盟校の多い北海道から選出すること等が確認されました

2 第61回全国学校給食研究協議大会報告

「生きる力を育む食育の推進と学校給食の充実～未来につなぐ心と体は食にあり～」をテーマにして、第1～第10分科会が設定され、2日間開催されました。定時制は第8分科会「夜間定時制高等学校の学校給食の在り方」をテーマにし、「夜間定時制高等学校の実態に応じた学校給食を実施するためにはどのようにしたらよいか」を研究主題として研究協議・意見交換が行われました。

- ①毎日3食をとる生徒の割合を増やすこと。
 - ②地域の食材を生かすこと。
 - ③決められた単価の中で栄養バランスを保つこと。
- 等について取り組むことの重要性が確認されました。

全国単位制高等学校長等連絡 研究協議会参加報告

北海道有朋高等学校
校長 穴 水 正

平成22年10月7日・8日の2日間、山形県山形市の「ホテルメトロポリタン山形」を会場として開催されました「第21回全国単位制高等学校長等連絡研究協議会」の報告をいたします。

本研究協議会はこれまで、全国の単位制高等学校の抱える諸課題とその対応や進取の取組みについて、単位制を導入している高等学校はいくつまでもなく、都道府県の教育関係諸機関や新たに単位制を導入しようとする高等学校へ情報を提供し、学校運営と教育活動の充実発展を図ろうという目的で開催されてきました。

参加者は200名を越え、2日間にわたる熱のこもった会議となりました。

【単位制高校委員会報告】10月7日（木）

開会式後に全国定時制通信制高等学校長会副理事長から都立昼夜間4部制高校を例として無学年・単位制の現状と課題について報告されました。高い専門性を有する教員配置などで全定の枠にとらわれない柔軟な人材を活用し、生き残り戦略としての特色化を図る必要とともに、全日制と定時制の枠組みにとらわれない学校の在り方が必要とのまとめがありました。

【研究協議Ⅰ（全体会）】

研究協議1日目はパネルディスカッション「多様なニーズに応える単位制高校のあり方」をテーマに掲げ、青森県立北斗高等学校長がコーディネーターを務める中、全日制から神奈川県立小田原高等学校長、山形県立高島高等学校長、定時制通信制から福島県立郡山萌世高等学校長の3名の提言から始まり、質疑応答・情報交換が行われました。

【研究協議Ⅱ（分科会）】10月8日（金）

研究協議2日目の定時制通信制分科会では、山形県立米沢工業高等学校長がコーディネーターを、群馬県立太田フレックス高等学校長、仙台市立仙台大志高等学校長両名がパネリストを務め、「単位制高校における当面する諸課題とその対応」をテーマに3部制定通併置校及び2部制単置校の教育課程の編成と実施、単位認定や定通併修等について質疑応答と情報交換がなされました。

2日間の研究協議を通じ、単位制高校としての新たな経営理念の構築や、北海道における定時制通信制高校間の連携の必要性を改めて感じました。

**第61回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長
協会教育研究協議会鳥取大会参加報告**

北海道幌加内高等学校教頭

山 本 周 男

1 大会日程・協議題等

◇期 日 平成 22 年 7 月 29 日(木) ～ 30 日(金)

◇会 場 公立学校共済組合鳥取宿泊所 白兔会館

◇参加者 210 名

◇研究主題 生徒の実態に応じた教育内容・方法の工夫・改善及び定時制通信制教育のための方策等について

◇分科会 第1分科会 教育課程

◇助言者 文科省初中局視学官 太田光春先生
鳥取県教委高校主事 中林直樹先生

2 研究協議について

私は、板東眞一定通部会長(有朋副校長)ならびに一色博介事務局長(琴似工業教頭)のお力添えの下、砂丘と漫画家水木しげるさんで注目の地、鳥取で本校の取組を教育課程を中心として発表する機会をいただきました。第1分科会では

① 地域と農業の力を活用し「生きる力」を育む教育課程の編成と実施

北海道幌加内高等学校教頭 山本 周男

② 教育課程の再考

～キャリア教育の取り組みを通じて～

青森県立八戸中央高等学校教頭 福士 順一
の2本の発表がありました。

以下、私が行った発表について報告いたします。

町立・昼間定時制・農業科1間口の本校において、入学者の減少と多様化する生徒に対する教育を地域の特性を活用しながらいかに実践して行くか、自ら学び続ける力の基礎・基本を高校時代にいかに育むかについての実践を発表しました。

(1) 現状を踏まえた取組

ア 志願者確保と不本意入学者を抑制する方策
中学校訪問、体験入学会、個別学校見学

イ 「農」や「食」に関する体験を通し創造の喜びや成就感から生徒を育てる実習

ウ 地域住民、小中学校、他校種等との連携
交流事業による心の教育の実践

エ 保護者巻き込み型の学校行事等による学校
経営基盤の強化

オ 寮生活を通じた社会性の獲得と自主・自律
の精神や態度の育成

※全校生徒の 96 % が寮生です。寮における生活指導、学習指導は本校教育の生命線です。

(2) 特色ある教育課程編成と実施

ア 学校設定科目「そば」

そば打ちの実習では、町内から5～6名の講師を招き、全国麺類文化地域間交流推進協議会(全麺協)の「素人そば打ち段位」資格認定に向けて技術を身に付けさせます。

イ 教育課程の柔軟な運用

ウ 教育課程編成および実施上の課題

①学校設定科目「そば」の増単と総合化

②多様化する生徒に対応するリベラル教育の組
込と学力上位生徒への対応の充実

③生徒の進路実現を支えるキャリア教育の充実

(3) 学校経営上の今後の課題

中学までに「いじめ」や「不登校」の経験がある生徒、LD・ADHD等の特別支援が必要と認定された生徒が増加してきています。特別支援教育や寮教育を踏まえつつ、本校への就学意欲が高く、実習学習が可能で、寮生活をおくることができる生徒の確保は重要課題です。そのような中で、学校の軸となる授業を構築すること、時宜を得た評価と改善を行うマネジメントサイクルを確立することも重要な課題です。

3 まとめ

生徒には困難に立ち向かう力、やりきる力を身につけさせたい。太田視学官からは、言語活動の充実を図りながら、学校のカリキュラムを地域に開放し、地域貢献の中で多くの能力を養うことをご助言いただきました。日々の授業、農業教育、寮生活指導を通し自己肯定感・自己有用感を育み、地域の力・農業の力が「生徒の笑顔」を作り、さらにそれが地域の信頼に応える相乗的な営みとなることを目指しています。これらを具現化するために、さらなる教職員の協働意識の高揚と資質の向上を図り、地域とともに歩みながら生徒が自己実現を図っていくことが本校の目指す学校経営のあり方であると再認識する大会参加となりました。



**第61回全国高等学校定時制通信制
教育振興会大会・研究協議会(新潟大会)
参加報告**

**北海道有朋高等学校教頭
川 邊 洋 一**

平成22年8月5日(木)～6日(金)の2日間にわたり新潟市朱鷺メッセを会場として開催されました。「第61回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会・研究協議会」について報告をします。

『トキ舞う新潟』から定通教育の新たな方向と可能性を探る」を大会テーマに、「若者の豊かな人生を切り拓く定通教育の振興を考える」を研究協議テーマとして開催されました。

【大会1日目】8月5日(木)

午前中の理事会、評議員会では、平成21年度決算、22年度予算案等すべての議案について承認され、今年度の全振役員についても原案通り、和田敬友会長は理事、穴水 正理事長は評議員として、それぞれ承認されました。また、北海道が主管する平成23年度第62回大会を含む平成28年度までの全国大会開催予定地区と新公益法人に移行に関わることに、説明があり承認されました。

午後からの開会式・総会では、島村宜伸会長から主催者挨拶、続いて来賓として新潟県知事、新潟市長からは歓迎の挨拶がありました。

また、功労者表彰では北海道からは佐藤富美子さん(函館中部高等学校定時制非常勤給食調理員)が表彰されました。続いての総会では、次年度開催地として、和田敬友会長が議長に選出され、前年度開催県、本年度開催県の各会長とともに議事進行をされました。総会後の講演会では、芥川賞受賞作家の藤沢 周氏による「遊びせんとや一若き可能性のための冒険」と題した講演が行われました。

その後の研究協議では、第2分科会で北海道支部を代表して、市立札幌大通高等学校の鈴木恵一教頭が「市立札幌大通高等学校における進路探究学習の推進と校内体制」という題で発表され、好評でした。

【大会2日目】8月6日(金)

各分科会からの報告があり、文部科学省の永井克昇視学官からの指導助言。最後に大会宣言文が高らかに朗読され大きな盛り上がりのなか、第61回新潟大会は終了しました。

次年度は北海道が開催地ということで、今大会には石狩地区から6名の教頭が参加しました。

**第58回全国高等学校定時制通信制
生徒生活体験発表大会参加報告**

**北海道札幌琴似工業高等学校教頭
一 色 博 介**

平成22年11月21日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第58回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が開催され、本校電気科3年の菅原有二君と北海道留寿都高等学校3年の真田舞子さんの2名が、北海道代表として出場しました。この大会は、全国の定時制・通信制高等学校に学ぶ生徒が、学校生活を通して、感じ、学んだ貴重な体験を発表し、多くの人々に感動と励ましを与えることを目的として行われ、発表時間は7分以内です。

全国大会は、午前の部において各都道府県の代表56名が5会場に分かれて発表し、各会場の上位2名が午後の全体発表会に出場します。菅原君の演題は『ぼくらの放課後』、小中学校時代に容姿や家族のことがきっかけでいじめや不登校を経験し、自分に自信をなくしていました。しかし、高校入学後演劇部に入部し人前で演じることを通して、「相手に真剣に向き合うことの大切さに気づいた」「演劇を通して自分を変えたいと思っている」ことを語りました。真田さんの演題は『少しの記憶』。老化現象としか考えていなかった祖母のことを、家族もわからなくなって初めて「認知症」であることを知る。福祉の授業や福祉施設での実習を通して「認知症」を学び、「祖母の中に、ほんの少しでも私がいるように、周りにいる大切な人やこれから出会う人達にとって、少しの記憶でも大きな存在になりたい」ことを語りました。

菅原君は午後の部に出場することはできませんでしたが、真田さんは見事に全体発表会出場を果たしました。大会の結果、真田さんは読売新聞社賞を受賞、菅原君も文部科学省初等中等教育局長賞を受賞しました。



第54回北海道高等学校定時制通信制 生徒生活体験発表大会報告

北海道札幌東高等学校教頭
山 崎 雅 明

第54回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会は札幌市教育文化会館において平成22年10月15日（金）に北海道、北海道教育委員会、札幌市教育委員会等9団体から後援及び助成等のご支援を賜り、全道各地区から11名の代表生徒を迎え、総数374名の参観者を得て盛会裏に開催することができました。大会運営にあたった当番校として関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

今年度も全道9地区の定時制及び通信制の代表から貴重な体験が発表されました。それぞれの生徒が高校生活の中で困難に押しつぶされてきた弱い自分と真剣に向き合い、それに立ち向かう中で、自分を支えてくれた先輩や先生方、共に活動し共に支え合った仲間の存在の大切さに気付いたこと、自らに与えられた環境の中で精一杯自己を高め、精神的に成長し、社会の中でたくましく生き抜くために必要な力を培ってきた姿が生きてきたと語られ、参観者に大きな感動を与えました。どの発表も甲乙つけがたく、審査委員も頭を悩ませながら採点されていました。高橋 教一教育長をはじめ多くのご来賓の皆様、代表生徒の真摯な発表の姿勢、参観する生徒の立派な参観態度、運営に携わる生徒のきびきびした動きにお褒めの言葉をいただきました。

最優秀賞の菅原 有二君（琴似工業）と優秀賞（第2位）の真田 舞子さん（留寿都）の2人が全国大会に出場し、全国から選ばれた代表者が競り合う中で、真田さんが上位六賞の読売新聞社賞、菅原君は文部科学省初等中等教育局長賞を受賞という立派な成績を残しました。

また、今年度はアトラクションの時間を長くとり、歌手デビューを夢見て、働きながら路上ライブ活動している北島 高二さんと、インディーズのミュージシャンとしてライブハウスで活動しているSATOCOさんに出演していただき、本大会に参加した生徒に「夢に向かって努力している若者のエネルギー」を感じさせることができたと思っております。

最後に、発表内容については大会集録「輝く青春（第44集）」に掲載されております。この記録集をなるべく多くの方々に読んでいただき、定時制通信制高校で学ぶ生徒のひたむきな生き方に触れていただきたいと思います。各学校に学級数プラス1冊送付しましたので、この冊子をより多くの方々のお目に触れるようご配慮をお願いし、本大会がますます発展することを祈念して報告と致します。



審査結果

- 最優秀賞 札幌琴似工業高等学校3年菅原 有二
「ぼくらの放課後」
- 優秀賞 留寿都高等学校3年 真田 舞子
「少しの記憶」
- 優秀賞 網走南ヶ丘高等学校4年 浜野 康平
「生徒会からの贈り物」
- 奨励賞 札幌月寒高等学校4年 鎌田 冬馬
「青鬼」
- 奨励賞 北海道有朋高等学校3年 谷口 正悟
「親愛なる私へ」
- 奨励賞 旭川商業高等学校4年 東谷 迪香
「自分を信じて」

調査研究部からの報告

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会調査研究部長
北海道札幌啓北商業高等学校教頭
石黒清裕

平成 21 年度の就職決定状況は極めて厳しく、今年度も状況は同じである。一方、今年度 5 月に中央教育審議会は、高等学校でのキャリア教育の重点として、社会や職業の現実的理解の深化と、自らの将来における社会参画のあり方を考えることの 2 点を強調した。また、昨年度の当部会調査研究報告では、「卒業させることを目的にするだけではなく、卒業後の『社会に参加する力（生きる力）』をどのように身につけさせるかが」重要な定時制通信制課程の課題であると述べられた。これをうけ、本年度の研究テーマは「キャリア教育の展開を踏まえた、定時制通信制課程における進学・就職指導の現状と課題」として、平成 19 年度の調査結果と比較しながら、キャリア教育の進展状況と現状における指導上の課題を明らかにすることを試みた。

全道の状況を見ると、進路実現に向けた各校の取組はより充実している。キャリア教育についての理解も 19 年度と比して進んでいる。また、生徒が進路を実現させる上での基本的理解も、各校の取組と公的機関の支援等により深まっている状況が確認できる。その中で、生徒が進路実現を果たす具体的な課題として、基本的生活習慣を確立し基礎学力とマナーを身につけ、働くことの意義を理解し、進路意識を高めることが多くの学校で認識されている。

課題解決のため各校では特徴ある取組を進めているが、進路適性検査の活用、インターンシップなどの社会体験、学校行事等での成功経験などが重視されている。多くの学校では、家庭・地域との連携を深め、担任の日常的な学習や生活に関する相談をより充実させていることがわかった。基礎学力を高める規律ある授業展開と、生徒を総合的に理解するための教員の指導力向上も不可欠条件としてあげられている。各校の進めている指導の方向性は社会の求めている人材育成と軌を一にするものである。今後明日の北海道を担う人材育成のため、公的機関の支援等も活用しながら、学校体制を確固たるものにしていかなければならないと考える。

北海道高等学校定時制通信制体育大会報告

北海道高等学校定時制通信制体育連盟事務局長
市立札幌大通高等学校教頭
鈴木恵一

平成 22 年度事業につきましては、関係各位のご理解とご協力により、すべて滞りなく終了することができました。特に、各支部、各専門部のご協力により、春の支部大会から北海道大会、秋季新人大会まで円滑に運営していただき、心より感謝申し上げます。

今年度の北海道大会及び全国大会の成績につきましては、事務局の市立札幌大通高等学校の下記の Web ページに掲載しておりますので、ご参照ください。

<http://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/teitairan/>

特筆すべきは、今年度も北海道大会の激戦を戦い抜いた選手達が全国の大舞台でも、その力をいかんなく発揮し優秀な成績をおさめたことです。

バドミントン男子個人で全国制覇 4 連覇がかかっていた草嶋允弥選手（有朋通信制）は見事に偉業を達成しました。同じく女子個人の田中桃子選手（札幌大通）は昨年の雪辱を果たし第 3 位でした。また、卓球女子団体は 9 連覇を目指していた天理高校を見事に破り、札幌大通高校が優勝を果たしました。この団体のメンバーだった女子の笹井北斗選手は個人でも優勝、同じく門傳かおり選手は第 3 位でした。また、自転車競技では、伊藤雄哉選手（双葉）が個人ロードレース優勝、4 km 速度 3 位、また伊藤瞬紀選手（双葉）は個人ロードレース準優勝、1 km タイムトライアル準優勝、3 km インディビジュアルパシュート優勝（大会新記録）と大健闘し、さらに、この 2 人によるチームロードレース優勝、ロードの部優勝、トラックの部優勝、そして総合優勝は快挙ともいえます。このように、北海道は毎年度全国の場で上位に食い込んでおり、今後の活躍が楽しみです。

★地区だより

日勝地区定時制教育の活動状況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

日勝地区長

北海道帯広柏葉高等学校教頭 菅 野 優

(1) 日勝地区の概況

日勝地区は、帯広柏葉高校、帯広農業高校、音更高校、日高高校の4校の定時制課程で構成されている。平成22年度の地区事業は、6月4日の定体連日勝支部大会、8月27日の生活体験発表大会の取組であった。以下、各学校の教育活動を紹介する。

(2) 帯広柏葉高等学校

本校は大正12年に帯広中学校として創立、今年87周年を迎え、定時制課程は昭和25年開設、今年60周年を迎えた。現在、管内唯一の夜間定時制課程としてその役割を果たしている。当初の勤労青年が学ぶ場から、最近は本校への転・編・入学までの経歴も多様な生徒の学びの場へと大きく様変わりしている。車椅子利用の2名の生徒も現在3年生になり、昨年の見学旅行も含め、元気に高校生活を送っている。3学期制の利点を生かし、多様な学力の実態に対応して先生方は基礎・基本を大切にし、考えさせる授業を念頭に授業を行い、生徒に係る情報交換を密に生徒指導に生かしている。また、今年度はスクールカウンセラーの通年配置となり、生徒へのきめ細かい個別カウンセリングを行っている。生徒会活動では、9月の学校祭に本校グラウンドの夜間照明下、体育祭を実施している。部活動では卓球部の男子個人で定体連全国大会にも出場するなど、体育系・文化系共に良く活動をしている。

(3) 帯広農業高等学校

本校は十勝農業学校として設置され、今年は創立90周年、定時制60周年を迎えた農業高校である。

1年次から3年次までは全日制と同様の時間帯で登校学習し、4年次は就業しながら月1回の登校を行う、4年間修業の昼間定時制である。本



校は、働くことを通して積極的に社会参加できる人材を育てることをめざし、体験学習を中心としたキャリア教育の充実を特色としている。具体的には、1年次は学校農場を中心とした農業実習、2年次は実際の農家で5日間宿泊しながら農家の仕事や生活

を体験する「農家委託実習」、3年次は実際の企業で連続6日間同一の仕事を体験する「企業体験学習」、これらの経験を基に生徒たちは自分の進路を考え、進路の実現をめざしている。その他にも、地元老人ホームや養護学校・小学校との交流など、生徒たちの学習の多くは地域と連携した中で行われている。

(4) 音更高等学校

定時制農業科と全日制普通科を併置する本校は、平成21年度に創立60周年を迎え、これまでに多くの卒業生を送り出し、音更町の政治・経済・文化な



ど中枢を担う人材を輩出している。したがって音更高校への期待と関心は非常に大きいものがある。現在、定時制農業科では、生徒の生涯にわたる学習の基礎を培うという観点に立って生徒に学ぶことの楽しさや成就感を体験させ、自ら学ぶ意欲を育むための適切な動機づけの方法を検討する中で地域に開かれた学校づくりに生徒を積極的に係らせている。

特に音更町と連携した学校開放講座（園芸講座）では、通年で21回計480名の町民が受講し、生徒は教える立場として受講者と共に学ぶことから「教えて学ぶ」、「学んで教える」という意識が高まり、学習に対する意欲が芽ばえ、学校生活全体に活力が生まれている。

(5) 日高高等学校

校訓「樹の如く伸びよ 星の如く輝け」のもと、全国から33名の生徒が集い学ぶ町立夜間定時制課程単置校である。昭和24年に静内農高日高分校として開校、昭和27年に日高高校として独立、創立62周年を迎える。平成2年度から昼間はスキーを中心としたスポーツ全般やアウトドア活動などの体験活動（町教委主管）を行い、夜間は高校で学ぶという新しい学習システム「産業学習推進制度」がスタートした。平成15年度から産業学習推進制度を学校外の学修として単位認定し、三修制を取り入れた。平成20年度には3コース制（スキーアスリート、キャリアデザイン、アドバンススタディ）を設置し、生徒のニーズに対応する幅を広げた。また学校教育目標は「自律する人間・共創する人間・錬磨する人間」と改正した。定体連日勝支部予選大会では平成22年度男子バスケットボール準優勝、綱引き優勝（2年連続）、高体連スキー大会では平成21年度インターハイに女子1名が出場した。

★地区だより

釧根地区定時制教育の活動状況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

釧根地区長

北海道釧路湖陵高等学校教頭 目谷信靖

(1) 釧根地区の状況

釧根地区の定通部会は、釧路湖陵高校、釧路工業高校の2校で運営されている。

平成22年度の地区事業としては、定体連地区大会、生活体験発表地区大会などが取り組まれている。

次に、各高校の教育活動について報告する。

(2) 釧路湖陵高等学校

本校の定時制課程は、大正12年私立釧路商業中学校夜間部として開校され、創立87年を迎える。

校訓「誠・愛・勇」の下、巣立った卒業生は4,323名を数え、各界で活躍している。現在は、各学年1学級で全校生徒111名が学んでいる。

「働きながら学ぶ」という夜間定時制本来の目的はもちろんのこと、中学時代不登校傾向だったり、他校からの進路変更や特別支援が必要などさまざまな生徒に対して、「生きる力＝社会で自立する力」をどのように身につけさせるかが大きな課題となっている。

そのため今年度の重点目標を、

- ☆学びの目標と意欲を持たせ、自己実現に向かって努力する姿勢を養う。
- ☆自律的な生活習慣を身につけさせ、望ましい職業観を養う。
- ☆学校生活の充実を図り、コミュニケーション能力を養う。

とし、具体的な実践に結びつけている。

今年度の主な新しい試み

- ◆キャリア教育の充実→NPO法人 くしろ若者サポートステーションとの連携
- ◆学校評価の改善→具体的な改善策に重点をおく評価
- ◆食育の推進→「もっと給食をとろうキャンペーン」実施
- ◆特別支援教育の充実→サポート委員会の活性化



(※8月の炊事遠足より)

(3) 釧路工業高等学校

本校は、昭和38年、全日制（昭和14年創立）に併置された夜間定時制課程である。当初は機械科1間口のみであったが、昭和40年に電気科が新設され2学科2間口として現在に至っている。

この間、道東唯一の定時制工業高校として地域の期待に応える教育活動を実践し、卒業生（1341名）は、釧路市内をはじめ、全道・全国の産学界で活躍している。

特色ある教育活動として、高校卒業者を対象に専門科目のみの履修により、2年間で工業高校の資格を得ることができる「電気科第Ⅱ類型」や専門教科・科目のみを学習できる「一部科目履修制度」を開設しており、地域住民を対象に実施している。

特に在校生には、職業高校の利点を活かし、資格取得指導に力を入れている。今年度は、全国工業高等学校校長協会、「ジュニアマスター顕彰制度」において、機械科、電気科生徒合計6名が、ジュニアマイスターの称号を受賞することができた。



(※ジュニアマイスターで表彰される生徒たち)

先生方の熱心な指導もあり、検定試験、国家資格をはじめとする各種資格取得に挑戦する生徒は年々増え、1年間で合計160個以上の資格を取得するまでに至っている。全校集会時に校長より表彰を行うなど、生徒の努力を讃え、意欲を喚起している。

運動系の部活動も盛んである。バスケットボール部と柔道部は、全道・全国大会でも活躍している。特にバスケットボール部は、平成21年度全国大会において準優勝の成績を収めている。平成22年度は、柔道部も全国大会出場を果たしている。

このように資格取得や部活動等、学校生活全般の教育を大切に、生き生きとした豊かな心を持つ生徒を育て、地域や保護者の期待に応える学校を目指し、教職員一丸となって取り組んでいる。

★地区だより
後志地区定時制教育の活動状況
北海道高等学校教頭・副校長会定通部会
後志地区長
北海道ニセコ高等学校教頭 大坂道明

後志地区の概況

後志地区の定通部会は小樽潮陵高校、小樽商業高校、小樽工業高校、ニセコ高校、真狩高校、留寿都高校、双葉高校の7校で運営されている。平成22年度の地区行事として、定体連地区大会及び全道大会の当番校業務。また生活体験発表では留寿都高校の代表生徒が全国大会に出場し優秀な成績を修めた。

次に各学校の教育活動について報告する。

(1) 小樽潮陵高等学校

小樽潮陵高校は、昭和16年3月、私立小樽潮陵中学校（夜間中学校）創立を認可され、昭和23年4月新学制により北海道立小樽高等学校と改称、私立小樽潮陵中学校を定時制課程に統合（道立移管）定時制課程となる。その後、幾多の変遷を重ね現在に至る。管内では少数となる普通学科の定時制高校として、一般教養の確実な定着を図りながら、一部商業科目も取り入れ、生徒の進路実現に向けた教育を行っている。ワープロ実務検定、電卓実務検定、簿記能力検定等の資格取得に向けた取り組みも活発で、中には1級を取得する生徒もいる。

(2) 小樽商業高等学校

小樽商業高校は大正2年に開校され、その後昭和23年10月に定時制課程商業科が設置された。少人数制により、自分らしさを伸ばす教育を目指しており、商業科目の専門教科と連動した資格取得により、多くの生徒が初級から簿記検定、情報処理検定、税務会計検定等に挑戦し、学年の進行と共に上級への合格を目指し、日々の学習に取り組んでいる。また、多様な生徒の希望に応えるために、3修生の制度も設け3年間で卒業できる教育課程も用意している。ビジネスでの実践力を身につけ、実社会で力強く生き抜く力をもった生徒が育っている。

(3) 小樽工業高等学校

小樽工業高校は、昭和14年3月に開校し、昭和19年4月、定時制課程が設置された。校訓「至誠致力」の下、電気コースと建築コースの2コースで専門技術を身につけている。電気コースでは電気エネルギーの発生から、変電、配電、電子工学、自動制御、等、幅広い学習を4年間にわたって実習する。また、建築コースでは「人間生活の器＝建築物」とし、建築するための、基礎的、基本的な知識と技術を学ぶ。両コースとも様々な実習を通し、専門的な技術職員となるよう学習を進めております。また、部活動も少ない人数の中、活発に行っておりサッカー、バスケット、卓球、バドミントン等多くの部が優秀な成績を修めている。

(4) ニセコ高等学校

ニセコ高校は、昭和23年倶知安農業高校の狩太分校として開設され、その後昭和39年にニセコ高校に改称された。開校当初の季節定時制課程から夜間定時制課程等を変遷し、現在は昼間定時制課程で主に3修生となっている。学科は「緑地観光科」であり、2年次より農業コースと観光コースに分かれて学習を行う。特にニセコ町の特色である観光業に貢献できる人材育成に向け、和室作法やベットメイキング等ユニークな取り組みが成されている。また、農業においても地域農業の後継者育成のため、基礎基本を身につける指導を行っている。

(5) 真狩高等学校

真狩高校は、昭和23年倶知安農業高校の真狩分校として開設され、その後昭和27年に真狩高校に改称された。現在は昼間定時制課程で主に3修生となっている。校訓「耕心錬磨」の下、農業高校としての確実な実践を重ねている。2年次よりバイオ園芸コースと生活情報コースの選択を行い、より専門的な学習を行うことで、全道の農業発展に寄与する人材を育成している。特に地域の特産であるユリ根の生産加工ではマスコットキャラクターを作る等し、力強い活動を行っている。また、寮を設置し、町外の生徒も多く受け入れ、規律ある生活を行っている。

(6) 留寿都高等学校

留寿都高校は昭和26年の開校、来年60周年の節目を迎える伝統ある留寿都村立の昼間定時制農業高校である。現在まで1300余名の優秀な地域農業の担い手と福祉関係者を輩出している。平成6年に全国唯一の農業福祉科に学科転換し、3年間または4年間、農業と福祉の学習を行う。4年生は海外農業実習、介護福祉士の国家試験合格を目指す。平成21年には、北海道で5校しかない介護福祉士国家試験が受験できる福祉系高等学校に指定、難関を突破する生徒が多い。畑作農業と道内有数のリゾート施設を有する恵まれた環境のなか、学習に実習に部活動に日々全力で取り組んでいる。

(7) 双葉高等学校

双葉高校は明治39年、真宗本願寺派大谷光瑞法主の裏方大谷簀子お裏方が来樽し、女学校を創立、その後小樽双葉高等女子学園等をへて現在に至る。通信制課程は平成17年に設定され、多くの卒業生を輩出している。全日制課程で長年培った「命の教育」「心の教育」を礎に、多様なニーズに応えた学びの場を提供している。スクーリングの形態に応じ土曜スクーリングと集中スクーリングを選択でき、進路に合わせたカリキュラムの設定や、他コースの授業の聴講が可能であり、スクーリング日以外でも直接の面談を行い、きめ細かな指導を行っている。

第42回北海道高等学校給食研究協議会 北海道大会報告

北海道札幌工業高等学校教頭
木 藤 宏 伸

平成22年10月7日（木）に第42回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会が札幌工業高等学校で開催されました。「意欲的な生活態度を育む学校給食の在り方」を研究主題として、理事総会、講演、研究協議を行いました。26校47名の先生方が参加いたしました。

〔理事総会〕

- ① 平成22年度会務中間報告
- ② 平成22年度会計中間報告が審議了承されました。
- ③ 平成22年度～23年度の役員構成が審議了承されました。

〔全体講演〕

- ① 講師（社）北海道栄養士会食育推進委員長 山際睦子先生より、「正しい生活習慣と学校給食の役割」をテーマにして、ご講演をいただいた。朝食をとること、会話を楽しみながら食事をとること。かたよった食事にならないこと。栄養のバランスに配慮することの重要性が強調された。

〔研究発表〕

北海道旭川工業高等学校定時制課程教頭 齊藤穰先生より、「学校給食の現状と課題」をテーマにして研究発表をしていただいた。

- ① 学校状況 ② 学校教育目標 ③ 生徒状況
- ④ 就職状況 ⑤ 夜間給食の現状 ⑥ 旭川市内各校の給食の実態アンケート調査結果等について研究報告をいただいた。

〔研究協議〕

学校給食の現状と課題について本研究会参加校から学校の現状等について報告をいただいた後、質問意見交換を行った。

- ① 質疑意見交換の主な内容

近年、給食の民間委託が実施される学校が増えており、望ましい給食の在り方、食育の推進との調整はいかにあるべきか。等について意見交換がなされた。また、給食費の未納が問題となる学校が出ており、食育の推進とともに、給食管理の在り方についても留意すべき点が指摘された。

退職にあたって

北海道小樽潮陵高等学校教頭
下 村 出

定通教頭会には5年間お世話になりました。札幌西高等学校では、2年間地区長を皆様のご協力を得て無事遂行できましたことを感謝申し上げます。定通教頭・副校長会のますますのご発展を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

退職にあたって

北海道札幌北高等学校教頭
佐 藤 憲 一

定時制教育には有朋高校通信制・単位制・北定を含め17年間お世話になりました。

特に札幌では、教育振興会全国大会に2度参加し、他府県の状況を勉強させていただいたことが1番の思い出となっております。来年度は北海道が当番ですが、お手伝いできずに心苦しく思っています。

北海道大会が成功するよう祈念し、石狩管内事務局校として、今後も事業に協力いただきますようお願いして、退職にあたっての挨拶とします。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

退職にあたって

北海道江別高等学校教頭
長 岡 良 幸

昭和48年4月1日付けで中標津高等学校夜間定時制の教員として赴任以来、7校38年勤めてきました。この間の思い出と言うと多々ありますが、一番思うことは、昭和は職員室でタバコを吸い、生徒たちも素直で叩かれても何一つ文句を言わなかった時代でした。今は、タバコは校地外で、手を挙げてはいけない等、随分様変わりしました。私にとって丁度良い潮時です。これからは、若く人間力・実践力があり、子供たちと向かい合う教頭が必要です。

定通教育の今後の発展をご祈念申し上げます。

定時制高校をもっと熱く！

北海道月寒高等学校教頭
成 田 敏 行

定年間際の三年間、「月定」は私にとって楽しい職場でした。かつ重たい職場でした。

学校教育の恩恵からこぼれ落ちかけた子どもたち。定時制高校は彼らにとって最後のセーフティネット見て見ぬふりの行政の無為に、つい「夜間定時制に陽が当たるべくもない」と自嘲気味に嘆いたり……。それでもひたむきに学び成長する生徒や、熱く彼らと向き合う先生方の存在が救いでした。それを教頭としてどうサポートするか、その生の姿をいかに世に向けて発信するかが、私の仕事の中心でした。（各TV局スタッフの協力に心から感謝します。）

「定時制高校よ、より熱く」——道のりは陰しくも、現場を去るにあたりそう期待せずにいられません。

平成23年度定通部会 事業計画（案）

● 北海道の事業計画

No.	事業計画	期 日	会 場
1	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会	平成23年5月17日(火)	旭川市
2	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会	5月17日(火)	旭川市
3	◆北海道高等学校教頭・副校長会総会第1回研究協議会	5月18日(水) ～19日(木)	旭川市
4	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会 総会・研究協議会	6月 6日(月)	札幌市
5	◆第43回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会	10月 5日(水)	札幌市
6	◆第55回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会	10月13日(木)	札幌市
7	◆平成23年度調査研究報告書発行 ◆「会報」発行	平成24年3月上旬	

● 全国の事業計画

No.	事業計画	期 日	会 場
1	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会校長・教頭研究協議会	平成23年5月9日(月) ～10日(火)	盛岡市
2	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第1回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	6月 3日(金)	東京都
3	◆第63回全国高等学校通信制教育研究協議会（全通研大会）	6月16日(木) ～17日(金)	高知市
4	◆第62回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会総会・教育研究協議会（全教協大会）	7月28日(木) ～29日(金)	那覇市
5	◆第62回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会（全振大会）	8月4日(木) ～ 5日(金)	札幌市
6	◆全国高等学校給食研究協議会理事会・総会	8月 1日(月)	東京都
7	◆第22回全国単位制高等学校長等連絡研究協議会	10月13日(木) ～14日(金)	丸亀市
8	◆第65回東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会（青森大会）（地区通研大会）	10月27日(木) ～28日(金)	青森市
9	◆第59回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会	11月20日(日)	東京都
10	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会教頭・副校長研究協議会	12月 1日(木) ～2日(金)	盛岡市
11	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第2回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	12月 9日(金)	東京都

編 集 後 記

当会WEB会報誌の発行も2年目を迎えました。改善点等、次年度以降の参考にしたいと考えておりますので、ご意見を聞かせください。

編集発行にあたり、ご校務ご多用の中ご執筆いただいた校長協会定通部会長の穴水校長先生をはじめ、全道の副校長・教頭先生、そしてWEB更新にあたり、北海道有朋高校の諸先生方に心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝を祈念いたします。

[恵庭南高等学校 吉野 光]